

「JENESYS2020」

2021 年度中国青年公益事業交流団オンライン交流（テーマ：ボランティア）の記録

1. オンライン交流概要

【目的】本交流は、中国の政府機関や企業、大学で、さまざまな分野の公益事業・ボランティアに従事する青年が、日本の同分野の関係者とテーマ別（スポーツ、環境保護、ボランティア）にオンラインで交流活動を行うもので、本プログラムは「ボランティア」をテーマとし、日本のボランティア事情等について理解を深めるとともに、日中両国の友好促進を図ることを目的として実施しました。

【参加者】 1 回目：中国側：公益事業・ボランティアに従事する大学生等 25 名
 日本側：（公財）よこはまユース 横浜市青少年育成センター 1 名、
 子どもを対象としたボランティア活動に参加している大学生 18 名
 2 回目：中国側：公益事業・ボランティアに従事する大学生等 24 名
 日本福祉大学 1 名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数実績）
1 回目 2022 年 3 月 23 日 神奈川県	【テーマ関連講義・発表・意見交換】 ①実施済みのプログラム（テーマ：スポーツ、環境保護）の動画視聴、日本側挨拶、中国側挨拶 ②横浜市の子どもを対象としたボランティアについて紹介 講師：（公財）よこはまユース 横浜市青少年育成 センター ③中国側より中国の子どもを対象としたボランティアについて紹介 ④グループ交流 5 グループに分かれ、アイスブレイク、自身が行っているボランティア活動内容や感想等の紹介、質疑応答・意見交換 ⑤交流の感想発表	「子どもを対象としたボランティア」を交流テーマとして、交流活動を行いました。参加者から「日本は絵本の読み聞かせや一緒に遊んだりするボランティアが多く、中国は勉強を教えるボランティアが多い」「ボランティアを通じ子どもから学ぶことも多い」「子どもたちの笑顔を見たら元気をもらえる」等のコメントがあり、日中の違いや共通点等を知り、ボランティア活動に対する新たな気づきを得たようです。 （参加者：中国側 25 名、日本側 19 名）

2 回目 2022 年 3 月 25 日 愛知県	【テーマ関連講義・質疑応答】 ①セミナー テーマ：ボランティア ～その捉え方と日本における実践活動～ 講師：野尻紀恵 日本福祉大学社会福祉学部 社会福祉学科 教授 ②質疑応答	コロナ禍で活動が制限されている中でのボランティア活動の進め方や、自然災害が多い日本での災害ボランティアの募集方法等について質問があがり、ボランティアの現状や日本特有の事情について関心を持った様子で、熱心にメモを取りながら参加していました。 (参加者:中国側 24 名、日本側 1 名)
---	--	---

2. 記録写真

	
2022 年 3 月 23 日 【テーマ関連講義・発表・意見交換】 グループ交流	2022 年 3 月 23 日 【テーマ関連講義・発表・意見交換】 笑顔で記念撮影
 2022 年 3 月 25 日 【テーマ関連講義・質疑応答】 中国大学生が講師へ質問	

3. 中国側参加者の感想（抜粋）

◆大学生

今回のオンライン交流を通じて、お互いの国のボランティア活動の状況について理解し、異なる環境でのボランティアの違いやボランティアの考え方、問題とその解決方法も知りました。国は異なりますが、ボランティア精神は同じで、皆ボランティアはなくてはならないものだと感じていることが分かり

ました。私にとって、人の役に立てることはとても嬉しいことで、人のために何かをして、相手が笑顔になるのを見ると、やってよかったと感じます。ボランティア活動の輪がより大きくなり、私達ボランティアがもっと多くの人の役に立てるようになることを願っています。

◆大学生

セミナーと交流活動に参加して多くのことを学びました。今まで日本のこと、特に文化についてはあまり知りませんでした。今回の日本の学生との交流はとても楽しく、彼らから詳しい紹介を聞き、日本の大学生のボランティア活動をよく理解することができ、志にも驚かされました。セミナーはとても素晴らしく、先生はとても詳しく説明をしていただき、私の質問にも答えてくださいました。とても満足しています。今後、このような交流がもっと多く開催されることを願っています。

◆大学生

日本の大学生と交流して、とても嬉しかったです。交流を通じて、日本の文化や生活についても知ることができ、見聞を広めることができました。また、それぞれのボランティア活動の経験について、しっかり話し合うことで、多くを学ぶことができました。これらを参考にすれば、今後の生活のなかで自分自身のレベルアップに繋がると思います。

◆大学生

オンライン交流を通じて、中日のボランティア活動における相違点が分かりました。多くの日本のボランティア活動を知ったので、今後の活動の参考にしていきたいです。また、日本の学生と交流し、日本の教授からセミナーを聞いたことで、私の視野を広めることができました。日本の先生や学生が教えてくれた方法を、今後のボランティア活動の中で試してみたいと思います。

4. 日本側参加者の感想（抜粋）

◆大学生

ボランティア活動の中でも、中国と日本では異なる点と共通する点を理解できました。また、日本でも知らなかったボランティア活動があり、子どもたちや社会が求めるボランティアのニーズが多様になってきたのだと感じました。さらに、中国では、コロナに対して感染防止ボランティアがあることに驚きました。PCR 検査を拒む住民に対して、説得を行うことを活動としていました。時代や社会の流れによってボランティアの仕組みや活動内容などが変化しているということに気づきました。中国でも日本でも、子どもたちに対してのボランティアは、子どもたちと共に楽しんで活動を行っていることが共通していました。大変だったことを乗り越えた先に、楽しさや喜びを感じている学生が多かったです。私のボランティア活動は、現在もコロナの影響で大変な状況にありますが、乗り越えた先に子どもたちの喜びや笑顔があると信じて、これからも活動に励んでいきたいと強く思いました。

◆大学生

普段なかなか話すことのできない文化の違う方々と直接話をすることができ、お互いの国のボランティアの現状を学ぶだけでなく、同じ思いを持ってボランティアを行なっていることを感じることができ、非常に良い体験でした。

◆大学生

言語や文化が異なっていたとしても子どもに対する想いに変わりはなく、ボランティアが人と人との繋がりをつくる重要な役割を果たしていることを感じた。その中で、自分たちも楽しさを見出しながら、コミュニティが段々と広がっていき、単なる社会貢献がソーシャルアクションへと発展していくことを振り返ることができた有意義な機会であった。中国学生とのグループディスカッションの中で日本とボランティアの特色が若干異なることを理解し、当たり前のことだが環境や資源によってボランティアの形も変化していく様を確認できた。

◆大学生

ボランティアの活動について日中で理解を深めることができ、日本では馴染みのないボランティアについて知ることができた。中国について感心を持つ機会になり、これをきっかけに中国について関心を持った。

5. 参加者の対外発信、報道記事等

3月23日、25日、由中国宋庆龄基金会和日中友好会馆主办，以“志愿精神”为主题的2022年线上中日青年交流活动在中国宋庆龄青少年科技文化交流中心成功举办。这是本次中日青年系列交流活动的第三场，中日青年大学生及志愿者60余人参加活动。



中国宋庆龄基金会国际合作交流部副部长李晓峰致辞

中国宋庆龄基金会国际合作交流部副部长李晓峰在致辞中表示，本次中日青年交流活动得到了中国政府和新闻媒体的广泛关注，取得了良好的社会效果。参加第一场交流活动的中方志愿者们把从会上交流到的经验应用在刚刚结束的北京冬奥会和冬残奥会上，为大会的成功举办做出了重要贡献。



日中友好会馆事务局长荻原芽女士致辞

日中友好会馆事务局长荻原芽女士在致辞中表示，中日青年交流活动让疫情中的日中两国同一领域的青年根据不同的主题进行在线交流，加深理解，促进了日中两国的友好关系。希望青年朋友们能够通过彼此的活动内容和感想进行交流，相互学习，并且把宝贵经验运用到今后的活动当中。

日本横滨市青少年培育中心中心长富冈克之介绍了横滨市青少年养育中心及所举办的志愿者活动。富冈先生表示，通过参与志愿活动，青少年可以在以下四个方面获得提升：一是通过与不同学校、年龄段和价值观的人交往，更加全面地了解自己；二是能够获得除了家长和老师以外的第三者认可的机会；三是在社会中发现值得信任的伙伴和成人，学会向别人寻求帮助；四是有利于之后成长为一个关心社会的人。



北京广播电视台主持人、“生活好课堂”文化公益品牌创办人李向显分享了开展关爱儿童志愿服务的相关情况。通过开展“北京市东城区儿童关爱保护”项目，对处于“困境家庭”的孩子给予关心和支持；开展“做个国际范儿的文明小使者”项目，组织动员社区专业人士开展儿童礼仪养成志愿服务；开展“社区小记者团寻找家风故事”项目，招募组建小记者队伍，在经过赋能培训后采写、传播家风故事，用志愿服务传承和创新传统文化，促进少年儿童社会角色的形成；开展“我为家人做顿饭”项目，让青少年在劳动付出中学会换位思考。



随后，来自北京师范大学、首都经贸大学等高校的 24 名中国大学生和来自日本福祉大学、神田外语大学等高校的 18 名日本大学生分 5 组展开交流讨论，气氛热烈。大家重点围绕自身的志愿活动内容及在活动中感受到的喜悦和遇到的困难进行交流。在总结发言环节，首都师范大学青年周芯如表示，中日青年们虽然有不同形式的志愿活动，但收获是相同的，那就是与小朋友成为朋友，这是最重要的。日本福祉大学青年表示，中国发达地区的青年通过线上方式帮助边远地区的孩子扩大视野，发现新世界，从而改变人生，这一点让他印象深刻。中日青年都认为，两国虽然文化不同，但是通过志愿活动，大家都能从真诚的反馈中获得生命的原动力，感受到真正的快乐。交流结束时，双方青年挥手致意、依依惜别，脸上灿烂、动人的笑容从瞬间定格为永恒。

3 月 25 日，日本福祉大学社会福祉学部教授野尻纪惠做了“志愿精神、对志愿活动的理解与日本的实践概况”的主题讲座，并回答了中日青年志愿者的问题。

2022 年 3 月 25 日（中国宋慶齡基金会ホームページ）

「2022 年中日青年が“ボランティア”をテーマに交流活動を実施」

ボランティアをテーマに 3 月 23 日に交流活動、3 月 25 日にセミナーを行った内容について紹介されました。

実施団体名：公益財団法人日中友好会館